



OKAYAMA
UNIVERSITY

ガニエの9教授事象と 授業デザイン

—新たな授業評価アンケートに潜む9つのTips—

ガニエの9教授事象



OKAYAMA
UNIVERSITY

効果的な学習を促す9つのステップ

導入

1 学習者の注意を喚起する

2 授業の目標を知らせる

3 前提条件を思い出させる

展開

4 新しい事項を提示する

5 学習の指針を与える

6 練習の機会をつくる

7 フィードバックを与える

まとめ

8 学習の成果を評価する

9 保持と転移を高める

岡山大学授業評価アンケート 質問項目抜粋

Ⅱ.(1) 初回もしくは各回の授業の始まりは、(私にとって) 学びがいをを感じるスタートだった

Ⅱ.(2) 教員が示した授業概要や到達目標により、(私が)何を学ぶべきかについて明確になった

Ⅱ.(3) 前提となる知識やすでに学んだことが適切に示され、(私は) 授業にスムーズに入ることができた

Ⅱ.(4) 教員の説明、解説、資料提示などにより、(私は)新しい学修内容を理解できた

Ⅱ.(5) すでに学んだ内容との類似性や相違性が提示され、(私は)新しい学修内容をより理解できた

Ⅱ.(6) 課題や小テスト、ディスカッション、質疑応答などを通じて、(私は)自身の到達度合いを確認できた

Ⅱ.(7) 教員からのフィードバック(※)によって、(私は)自身の理解が正しいのか、あるいは誤っているのかを確認できた

Ⅱ.(8) シラバスに記載された成績評価の方法は、目標の到達度を測るのに妥当だと(私は)感じた

Ⅱ.(9)(私は)この授業で学んだことが、今後の発展的学習や社会活動に生かせると思った

01

1. 導入フェーズ 学習への準備を整える

1. 学習者の注意を喚起する

Gaining Attention

役割 (Role)

学生の関心を引きつけ、学習意欲を高める「何か面白そうだ」「学びたい」という**受け入れ態勢**を整える

大学の授業における実践例

関連する**驚くべきデータ**や**矛盾する事実**の提示 (大人数講義) / 現象を捉えた**鮮明な動画**や日常生活の具体例の提示 (演習・実験)

関連する授業評価アンケート項目

Ⅱ. (1) 初回もしくは各回の授業の始まりは、(私にとって) 学びがいを感じるスタートだった

2. 授業の目標を知らせる

Informing Learners of the Objective

役割 (Role)

授業で何を達成すべきか(出口)を明確にし、学生が**重要な情報に焦点**を合わせ、学習の意図や将来への関連性を見出すのを助ける

大学の授業における実践例

「今日具体的に**何ができるようになるのか**」を平易な言葉で提示 (大人数講義) / 今日の学びが**将来どう役立つ**かメリットを強調 (演習・実験)

関連する授業評価アンケート項目

II. (2) 教員が示した授業概要や到達目標により、(私が)何を学ぶべきかについて明確になった

3. 前提条件を思い出させる

Stimulating Recall of Prior Learning

役割 (Role)

新しい内容を効果的に記憶に組み込むため、すでに関連事項(**既有知識**)を長期記憶から引き出し、すぐに使える状態にする準備

大学の授業における実践例

前回の授業内容や必要となる**基礎知識**の簡単な説明・質問 (大人数講義) / 既習事項に関連した例を使い、理解を促す

関連する授業評価アンケート項目

II. (3) 前提となる知識やすでに学んだことが適切に示され、(私は) 授業にスムーズに入ることができた

02

2. 展開フェーズ 学習内容の提示と活動

4. 新しい事項を提示する

Presenting the Stimulus

役割 (Role)

学習目標となる新しい情報やスキルを、学生が理解しやすいように**具体的に提示**し、記憶に組み込ませるためのコアとなる段階

大学の授業における実践例

公式や概念名だけでなく、**現実世界の具体例**を豊富に提示 (大人数講義) / **図や表、動画**など、全体像や違いが分かりやすい**図解**を工夫 (演習・実験)

関連する授業評価アンケート項目

Ⅱ.(4) 教員の説明、解説、資料提示などにより、(私は) 新しい学修内容を理解できた

5. 学習の指針を与える

Providing Learning Guidance

役割 (Role)

新しい学習内容を長期記憶に定着させるため、既有知識との比較や、覚え方(語呂合わせ、比喩)などの**ヒントを提供**し、情報を取り出しやすくする道筋(符号化)をつける

大学の授業における実践例

既存の知識や枠組みと**対比**させ、**類似点や相違点**を考えさせる (大人数講義) / **たとえ話や比喩**を使い、身近なものに関連づけてヒントを与える (演習・実験)

関連する授業評価アンケート項目

Ⅱ. (5) すでに学んだ内容との類似性や相違性が提示され、(私は) 新しい学修内容をより理解できた

6. 練習の機会をつくる 💪

Eliciting Performance

役割 (Role)

学んだ知識やスキルを長期記憶から**引き出したり、応用したりする練習**の機会を提供し、知識の定着と目標行動の達成を確認する

大学の授業における実践例

理解度を確認するミニッツペーパー (要約の練習) や、**簡単な小テスト**を実施 (大人数講義) / 授業とは異なる**未知の例**で知識を適用させる**練習問題** (演習・実験)

関連する授業評価アンケート項目

II. (6) 課題や小テスト、ディスカッション、質疑応答などを通じて、(私は)自身の到達度合いを確認できた

7. フィードバックを与える

Providing Feedback

役割 (Role)

練習(事象6)の結果に対しすぐに応答し、学習者が自身の**理解の正誤を認識**し、間違いを訂正する機会を提供する

大学の授業における実践例

単なる正誤だけでなく、**なぜ間違っただかの原因や、具体的な助言**をコメント (大人数講義) / その場で**建設的なコメント**を返し、学生が思考過程を振り返るよう促す (演習・実験)

関連する授業評価アンケート項目

II. (7) 教員からのフィードバック(※)によって、(私は)自身の理解が正しいのか、あるいは誤っているのかを確認できた

03

3. まとめフェーズ 評価と定着

8. 学習の成果を評価する

Assessing Performance

役割 (Role)

新しい学習内容を習得できたかを最終確認するため、テスト等を実施し、学習目標への**到達度を客観的に測定・判断**する

大学の授業における実践例

教えた内容を網羅し、**学習目標に忠実な評価** (教えてないことをテストしない) を行う (大人数講義) / **評価基準 (合格基準)を明確**にし、学生が努力の方向性を理解できるようにする

関連する授業評価アンケート項目

II. (8) シラバスに記載された成績評価の方法は、目標の到達度を測るのに妥当だと(私は) 感じた

9. 保持と転移を高める

Enhancing Retention and Transfer

役割 (Role)

学んだ知識やスキルを長期的に記憶し続け(**保持**)、さらに他の状況や現実の応用場面で活用できるようにする(**転移**)活動を促す

大学の授業における実践例

忘れた頃に、以前の内容に関連する**再確認テスト**を計画する / 習得したスキルを、**日常生活や他の科目へ応用**できる場面がないかを考えさせる

関連する授業評価アンケート項目

Ⅱ.(9) (私は)この授業で学んだことが、今後の発展的学習や社会活動に生かせると思った

04

まとめ

9教授事象と「自己調整学習者」の育成

授業設計は、学生が自律した学び手へと成長するプロセスそのものです

ガニエの9教授事象は、授業設計の優れた**チェックリスト**である

同時に、学生を「**自己調整学習者**」へと育てるための道筋でもある

学生が授業で提示された事象(1～9)を体験し、自らそのプロセスを**意識化**し、**振り返り(メタ認知)**、次の学習に活かす(学習方略)ことで、**自律した学び手**へと成長していく

新しい授業評価アンケートは、先生方が提供する授業プロセス(事象1～9)が、学生の「学び」の観点から期待通りに機能しているかを測る**貴重なフィードバック**となる

これらの質問の意図を理解し、9教授事象を意識した**授業改善**にぜひお役立てください



解説は以上となります。ありがとうございました。

タイトル : ガニエの9教授事象と授業デザイン ―新たな授業評価アンケートに潜む9つのTips―
発行日 : 2026年3月30日 初版
監修 : 岡山大学 教学企画室
制作 : 岡山大学 学務部学務企画課
問い合わせ : daf8423@adm.okayama-u.ac.jp (◎を@に置き換えてください)

【生成AIの使用に関する付記】

この動画及びスライドの一部は、生成AIを活用して作成しています。

監修者・制作者が確認・編集し、内容を最終確認しています。

この動画及びスライドの作成にあたり、以下の書籍から、知見と示唆を得ました。
ありがとうございました。
内容について、興味・関心をお持ちの方は、ぜひ一読ください。

[参考書籍]

タイトル : 学習設計マニュアル「おとな」になるためのインストラクショナルデザイン
発行日 : 2018年3月12日初版（現在は改訂新版が発行されています）
編著 : 鈴木克明・美馬のゆり
出版社 : 北大路書房